

令和6年度（第63回）農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（トップリーダー発表会）

【香りの強いユズの特徴をいかした先駆的な6次産業化の実施】

《スケジュール》

13:30~16:00

(敬称略)

- | | | | | |
|---|---|-----------|--|--------|
| 1 | 開 | 会 (13:30) | 公益財団法人 日本農林漁業振興会 常務理事 | 小栗 邦夫 |
| 2 | 挨 | 拶 | 農林水産省大臣農林水産技術会議事務局研究推進課
技術政策情報分析官 | 島津 久樹 |
| 3 | 選 | 賞審査報告 | 農林水産祭中央審査委員会経営分科会主査
(筑波大学名誉教授) | 納口 るり子 |
| 4 | 業 | 績発表 | 令和5年度農林水産祭多角化経営部門天皇杯受賞
馬路村農業協同組合 代表理事専務 | 木下 彰二 |

・・・休憩 (14:30~14:40) ・・・

- 5 ディスカッション (14:40)
(登壇者)
- ・コーディネーター
納口 るり子 (3に同じ)
 - ・業績発表者
木下 彰二 (4に同じ)
 - ・コメンテーター
西山 未真 (農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員
(宇都宮大学農学部教授))
山田 敏之 (農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員
こと京都株式会社代表取締役)
中野 和彦 (高知県中央西農業振興センター農業改良普及課専門員)

(内容)

- ・意見交換、質疑応答
- ・総括

- 6 閉 会 (16:00)

令和6年度（第63回）農林水産祭 「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」 （香りの強いユズの特徴をいかした先駆的な6次産業化の実施）

選賞審査報告



令和5年度農林水産祭中央審査委員会
経営分科会・多角化経営分科会主査

納口るり子

（筑波大学 名誉教授）



【農林水産祭の趣旨】

国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により、昭和37年から実施。

【農林水産祭選賞部門】

- 農産・蚕糸部門
- 園芸部門
- 畜産部門
- 水産部門
- 林産部門
- 多角化経営部門
- むらづくり部門
- 女性の活躍

【授賞区分：三賞】 *女性の活躍は二賞

天皇杯 内閣総理大臣賞 日本農林漁業振興会会長賞

第62回農林水産祭多角化経営部門の選賞経過

- **選賞対象**：過去1年間（令和4年7月～令和5年6月）の農林水産祭参加表彰事業（266件）のうち、農林水産大臣賞を受賞した456点が対象、うち多角化経営部門の対象は15点。
多角化経営部門では、品目別の部会では適切に評価できないような、地域経営、ネットワークの中核組織、6次産業経営、加工販売が中心の経営、複合経営などを審査する。

- **選賞経過**

令和5年7月7日 第1回経営分科会・経営多角化分科会開催

（書面および合議審査により現地調査対象3候補を選定）

令和5年8月7日～24日（馬路村は24日） （現地調査）

令和5年9月22日 第2回経営分科会・経営多角化分科会開催

（現地調査報告の上、合議審査により三賞候補を決定）

令和5年10月10日 中央審査委員会第2回総会開催 （合議審査により三賞受賞者を決定）

- **選考委員**（経営分科会・経営多角化分科会委員・専門委員）（**青字**は馬路村の現地調査担当者）

〈委員〉 **納口るり子**（筑波大学名誉教授） 澁谷美紀（農研機構）

渋谷往男（東京農業大学） 宮武恭一（農研機構）

〈専門委員〉 小泉聖一（日本大学） 佐々木貴文（北海道大学）

仙北谷康（帯広畜産大学） 徳田博美（名古屋大学） **西山未真**（宇都宮大学）

松田恭子（（株）結アソシエイト） 山田敏之（こと京都（株））

山本信次（岩手大学）

【三賞の決定】

天皇杯

馬路村農業協同組合

(代表 北岡 雄一) 高知県馬路村

「香りの強いユズの特徴を生かした先駆的な6次産業化の実施」



内閣総理大臣賞

株式会社デリーファーム

(代表取締役 市田 眞澄) 愛知県常滑市

「こだわりの卵の魅力をかきた6次産業化の推進」



日本農林漁業振興会会長賞

株式会社ニューズ

(代表 土居 裕子) 愛媛県伊方町

「誰もが働きやすく成長できる組織づくりと多様な柑橘の栽培」



審査に当たって経営面で配慮すべきポイント

- 1) **先進性**：収益性、生産性、革新性、消費者ニーズ、製品開発 等
- 2) **持続性（安定性）**：収益、財務、労働、経済変動、製品の安全性、環境保全、後継者、経営管理
- 3) **普及性**：全国、地域内、同業者 等のモデル
- 4) **時代の要請**：地域環境・地球環境、食品の安全性、多面的機能、政策課題の解決 等
- 5) **経営者の人格**：受賞に値する人格・社格、地域社会への貢献 等

馬路村農業協同組合を高く評価した点(1)

1) 受賞者の取組の経過と経営の現況

- ① 地域の主要産業である林業が昭和中期から衰退。村の人口は昭和35年の3,425人をピークに減少し、現在は約800人。 **(条件不利性：アクセス、耕地率)**
- ② 平地が少なく日照時間も短い山村で特産品を模索し、昭和30年代から栽培されているユズに着目した。馬路村のユズは、皮が厚くて酸味も強いため青果販売は難しいが、香りに強い特徴があったため、加工事業に取り組むことにした。 **(地域資源利用)**
- ③ 6次産業化の取組が一般的でない昭和50年代に生産・加工・販売を一貫して行う体制を整え村の特産品として全国的に認知されるようになった。 **(取組の先進性)**
- ④ 「堂々たる田舎」をキャッチコピーに、馬路村の田舎の雰囲気の商品と共にPRし、村と商品のファンを増やし続け、観光客の誘致や移住者・関係人口の増加にも寄与した。 **(ストーリー性の付与)**

馬路村農業協同組合を高く評価した点(2)

2) 受賞者の特色

- ① 化学肥料や農薬を使用しない**有機農業やそれに準じる栽培**を行うための「馬路村ゆず栽培の指針」を制作し、ユズ集荷説明会を実施。ユズ加工品の残渣と地元製材所の木材残渣で堆肥を製造し、農業者に無料配布。
- ② **ロングセラー商品（約40年）** ぽん酢しょうゆ「ゆずの村」、はちみつ入りユズ飲料「ごっくん馬路村」の開発。これまでに食品や化粧品等の幅広い**商品開発60種類以上**。加工品材料の生産。



馬路村農業協同組合を高く評価した点(3)

- ③ 田舎のイメージを前面に出した商品戦略：CM宣伝、百貨店の催事で農協職員が販売、広告ポスターに地元の農家や子供を起用。**商品のファン+村のファン**を作る。
- ④ パン工房「ゆずの花」や直売所「ゆずの森」の設置、「ゆずはじまる祭り」などのイベント等の企画・開催
一人を呼び込む仕掛けづくり。
- ⑤ 現在4人の広報担当、外部アドバイザーやデザイナーと連携により、**馬路村ブランド**の構築。



馬路村農業協同組合を高く評価した点(4)

3) 普及性

- ① **労働力確保とファンづくり**：収穫期に「ふるさとワーキングホリデーゆずとり応援隊」ゆず収穫（日当7,000円）体験。
- ② **ユズ生産の担い手確保**：（株）ゆず組合設立3ha、Uターン・Iターン者にも貸し出し。
- ③ **村内での雇用機会の確保**：ユズの加工場、梱包施設、コールセンター等 約90名の地域雇用。
- ④ **次世代リーダーの育成**：村外からのIターン職員、若い職員の活躍の場、村の若者層の有志が「馬路村若者座談会」。

⇒ 「馬路村」「馬路村農協」小さくて Independent な地域づくり
人口減少時代の日本への示唆





村の面積の96%が森林

森林鉄道で木材の運搬





小さなゆず産地だった



馬路村の
おばちゃんか
ついた

ゆずの味

履べらと。



い...とうなすく
ほすた。

ゆずがたっ...
90

通販のヒント



出品人	氏名	住所
	〃	〃
	〃	〃
	〃	〃
	〃	〃
	〃	〃



発行所
高知新聞社
高知市本町3丁目1-15
電話 08852111
編集 08852111
印刷 高知新聞社印刷部
〒770 高知新聞社 1988

馬路産品が物産展で日本一

高知市及び高知市周辺で自給自足を目指す日本八人の有志者がセブ
島で開催された「第1回日本八人自給自足展」で、高知市産の「ゆず」が
賞状を授けられた。この賞状は、高知市産の「ゆず」が、セブ島の
「第1回日本八人自給自足展」で、高知市産の「ゆず」が、セブ島の
「第1回日本八人自給自足展」で、高知市産の「ゆず」が、セブ島の



西武ルートで全国販売

【高知市】高知市産のゆずが、西武グループの全国展開を期すため、西武グループを通じて全国に販売されることになった。高知市産のゆずが、西武グループを通じて全国に販売されることになった。



高知市産のゆずが西武グループを通じて全国に販売されることになった。

馬路の『ゆずの村』(ぼん 群 しょうゆ)
特産品展で日本一



馬路の工夫が評判を呼んだ「ゆずの村」(高知市、西武グループ物産展)

東京・池袋

みなとみから

高知市産のゆずが、西武グループを通じて全国に販売されることになった。高知市産のゆずが、西武グループを通じて全国に販売されることになった。

馬路村から
ありがとう

高知市産のゆずが、西武グループを通じて全国に販売されることになった。高知市産のゆずが、西武グループを通じて全国に販売されることになった。



高知市産のゆずが、西武グループを通じて全国に販売されることになった。高知市産のゆずが、西武グループを通じて全国に販売されることになった。



ごっくん馬路村誕生



おんちやま 馬路。きんや。

ほくらあゝの村は

山の中わき

夏は二百中

川におる

ひよとみかけたら

声かけてや

魚つちやたらやめま。

おんちやま

馬路の水はしびる

ななはなやまの田んぼ

ほれに晩はだかてねらん

いじやと田舎やま

かぐいして来とこがせ。



11月のゆず出荷風景





ゆず玉 洗淨ライン





搾 汁







循環型 堆肥づくり





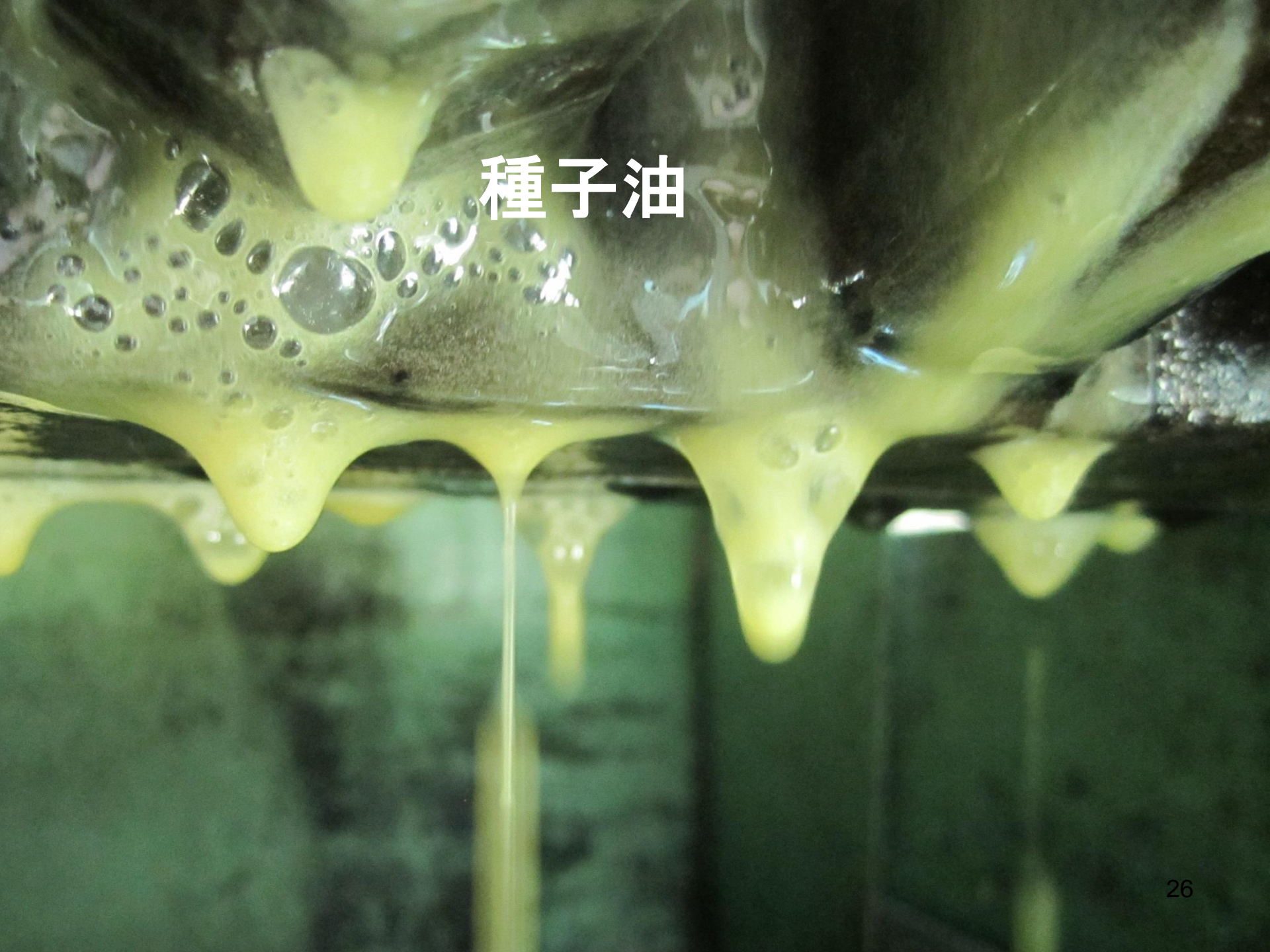


化粧品 工場





種子油



保湿

高知県馬路村
ユズ種子オイル

100%

成分を壊さないように、低温で時間をたっぷりかけて
搾ったそのままをつめました。
希少なユズ種子オイルの力が
イキイキとした
ハリのある強い肌へ
導きます。

植物オイル
アルコール
パラベン
着色料
香料



30ml 2,800円



馬路村はうれしい
ゆずの季節を迎えました。

ゆずの村

産地の恵みスキンケア

umaji は希少な成分を賢く
につかい、ゆずの産地、馬
路村の自負と感謝を込めて、
研究から、製造、販売まで
を一貫して行っています。

コンクリートを使わず自然石でゆず園を



新工場





上野山
上野山
工場見学出来ませ

コールセンターも自分たちで



環境型 ギフトセット

もらう人にも
贈る人にも
地球にもやさしい
セットです。



クッション材の代わりに
タオルを使用しました。
箱はダンボールでつくりました。



もったいないを、楽しくしよう！



全てのセットに
タオルが
入ります。

循環型川づくりへの協力



馬路村の
安田川

近自然工法で魚戻る

【中芸】昨年末、近自然工法による河川改修を行った安芸郡馬路村の安田川で、このほど、改修の効果を検証する生物調査が行われ、アメゴやアユが増えていることが確認された。関係者は「工事で河川環境が回復することが実証された」と喜んでいる。

（吉川博之）

近年、安田川の上流部では土砂堆積（たいせき）の影響などで魚類の生息数が減ったことから、「安田川を美しくする馬路地区村民会議」（会長 上治富司村長）が対策を協議。近自然工法の実績がある西日本科学技術研究所（福岡博文所長）

改修地点調査 冷水域にアメゴ定着

を中心とし、河川改修を行う。昨年、村属追加工場付近の約二十枚の範囲で



石積みの中に集まっていたアメゴ（7月末）
＝写真はいずれも馬路村馬路



隅がでるよう、岸辺が水目視による魚類の生息から川に突き出るように石密度を調査。一年後の先積みを二カ所所造り、河床、月末に、同じ場所と同様に掘り下げるなどした。の調査を行い比較した。同研究所は効果を検証。改修地点で調査を行った。昨年七月末、改修地点はほとんどいなくなった。昨年七月末、改修地点はほとんどいなくなった。昨年七月末、改修地点はほとんどいなくなった。昨年七月末、改修地点はほとんどいなくなった。

2010-8月 施工後



1年後 新たに淵が形成された

2009-8月 施工前



砂利が体積している

ゆず収穫 ワーキングホリディ



人口知能 ごっくんAI





村のジオラマ



**産地の強みを生かし
持続可能な村づくりを目指して
ありがとうございました**